

社会に開かれた学校をめざす総合学科高校の取組

神奈川県立藤沢総合高等学校

1. はじめに

本校は、平成16年に普通科の県立藤沢北高等学校と県立長後高等学校が再編統合の上、鎌倉・湘南地区の単位制総合学科として設立された。開校当初より、生徒が自分の興味関心や将来の職業選択を視野に入れた科目を自由に選択して学ぶことができるシステムを用意し、商業、農業、福祉などの専門教科や多様な学校設定教科・科目を設け、特色ある教育を展開してきた。

昨年度、神奈川県教育委員会では、少子化による生徒減少への対応と教育の質の向上をめざし県立高校改革実施計画を策定した。その一環として、県立全日制総合学科高校についても教育改善に取り組むことになった。

本県の総合学科の生徒に身に付けさせたい資質・能力は次のとおりである。

- 共通教科・科目で学んだ知識・技能をいかし、現代的な課題や自らの進路にかかる課題を発見し、解決につなげるための論理的思考力。
- 自ら考察・探究し、創造したことを発表することで、自分の考えを多彩に表現できるプレゼンテーション能力。
- 将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度。

これまで各校で違いのあった系列は、「グローバル教養」「芸術スポーツ」「生活デザイン」「情報ビジネス」の4系列に統一し、共通教科や専門教科を整理することとした。各校は、学校間で情報交換をしながら教育改善に取り組む、特色を打ち出している。

本校は、多彩な校外学習や体験活動等の機会を設け、教育活動全般でキャリア教育に取り組んできた。大学や専門学校、他の高校と教育連携を図り、専門科目や学校設定科目には地域の専門家を講師に招くなど、積極的に外部と連携・協働しながら生徒の学習活動が充実するよう工夫してきた。

本稿では、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」のキャリア学習の主な取組と「生活デザイン系列」「情報ビジネス系列」の職業教育に係る授業の一部を紹介したい。

2. 1年次「産業社会と人間」

総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」は、本校のキャリア教育の基盤となっている。この科目の目標は、体験的な学習を通して、社会に出て働くときに必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けるとともに、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図り、社会に貢献する

意識を培うことである。授業は、1年次の担任と副担任のチーム・ティーチングで指導しており、「事前学習」⇒「体験学習」⇒「まとめ」⇒「発表」を基本的な流れとしている。

(1) 職業を知る①～社会人講話～

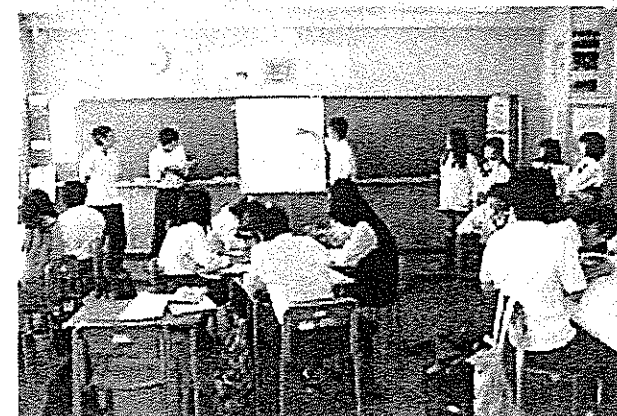
社会の第一線で働いている方を学校に招き、生徒に二つの業種の講話を聞く機会を設けている。仕事内容や社会で働くことの意義を学ばせ、まとめとしてグループによる発表会を実施している。

【社会人講師の職業】

看護師、警察官、公務員、消防士、美容師、保育士、介護福祉士、臨床検査技師、獣医、歯科衛生士、建築士、調理師、トリマー、インテリアコーディネーター、パティシエ、プログラマー、ウェディングプランナー、システムエンジニア、旅行業務スタッフ、アパレル（パタンナー）、エステティシャン、スポーツインストラクター など

(2) 履修ガイダンス

3年間を見通した履修計画を考えさせることは、総合学科では最も重要なことである。生徒は、科目選択のしくみを知り、希望の進路にあった選択科目を考え、進路実現に向けた履修計画を立てている。履修計画の作り方を理解するために、学校は、5種類のサンプルを設定して、そのサンプルにあった時間割をグループで討論させ、系統立てた履修計画を作成させる。



産業社会と人間（履修ガイダンス）

(3) 職業を知る②～働く人へインタビュー～

県内で働く社会人への訪問取材を通して、働くことへの意義等を学ばせる。インタビューの事前学習では、メモの取り方や電話の掛け方、話の聞き方・伝え方などを学び、他者と関わる力を養い、社会で生きていく力を身に付けさせる。1グループ5～7名で取材に訪れ、学習のまとめとして報告会を実施し、取材した内容を記事にする。

【協力いただいている事業所】

文教大学、関東学院大学、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ、県人事委員会事務局、横浜美術館、野毛山動物園、藤沢市総合市民図書館、県立地球市民かながわプラザ、湘南ホスピタル、藤沢市役所、藤沢北警察署、藤沢市消防局、藤沢市老人福祉センターこぶし荘、亀井野保育園、長後市民センター、湘南グッド、ロワール光月堂 他 全48カ所

3. 2、3年次「総合的な学習の時間」

(1) 2年次「プレ課題研究」

1年次の「産業社会と人間」での学びを、進路選択につなげるために、2年次の「総合的な学習の時間」は「プレ課題研究」として展開している。

前期は進路決定のための準備と課題研究について学ぶ。進路について相談する機会を多く持つことが具体的な行動を起こすことにつながると考え、大学生や社会人を招き、仕事に対する考えやアプローチを聞く「認定NPO法人カタリバ」のプログラムを導入している。また、大学進学を希望する生徒のためには、大学教授に、実際の大学の授業1コマ分の時間で「課題研究の調査・研究の仕方」について講義をしていただく。大学の授業を体験し、調査・研究の方法を学ぶだけでなく、「メモをとる力」の必要性を学ばせている。講義を聞き取ったメモを次時の授業でノートに

まとめさせ、その後の課題研究や上級学校での授業における活用と、社会人として必要な力の育成をめざしている。

2年次の後期は沖縄を題材にして、調査の仕方、データのまとめ方、レポートの書き方、発表の仕方を学ぶ。



総合的な学習の時間（カタリ場）

(2) 3年次「課題研究」

2年次の1月下旬から、教科横断的なテーマや進路を意識したテーマを設定し、研究を進める。創作活動を行う生徒も多く見られる。専門高校とは違い、必ずしも生徒のテーマに精通した教員がいるわけではないので、多方面の助言を受け、レポートを完成させている。この「課題研究」で大切なことは、完成したレポートを活用して進路実現を図ることはもとより、将来の生き方の明確化の一助とすることである。3年次の「課題研究」は前期で終わるため、その後の進路実現に活用する時間が十分ある。9月に全校で「課題研究発表会」を行っており、下級生にとって研究イメージを養う良い機会となっている。

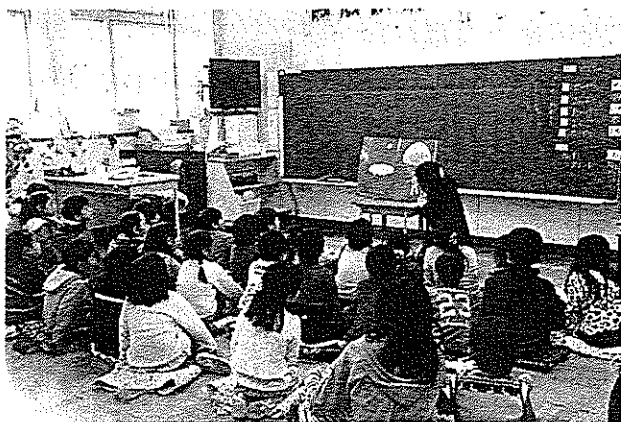
4. 職業教育に係る系列科目

(1) 生活デザイン系列

家庭科、福祉科、農業科の科目を設置している生活デザイン系列では、保育士や幼稚園教諭を希望する生徒が多いことから、「子ども

の発達と保育」は主要な科目になっている。子どもの遊びの学習では、グループに分かれて絵本の読み聞かせを練習し発表する。授業内の発表だけでなく、希望者は近隣の小学校1年生の教室を訪れ、練習した読み聞かせを小学生の前で披露する。小学生の反応に生徒は充実感を味わい、小学生も高校生との交流を喜んでくれている。

「生活と福祉」の履修者には、介護士や看護師を希望する生徒が多く、希望者は年々増加傾向にある。授業は、家庭科教諭とケアマネージャーの資格を持つ講師のチーム・ティーチングで行っている。ベッドメイキングに始まり、体位交換、車いすや杖歩行介助、食事介助等、様々な実技を取り入れている。看護学校に進学した卒業生は、「授業で学んだことは、専門学校に行って基礎の基礎で学びました。高校で学んでいたのが、自信をもって取り組みました」と報告をくれている。福祉関係では、その他に「社会福祉基礎」、学校設定科目「児童福祉」を開講している。



小学校訪問（読み聞かせ）

農業科の科目は、「野菜」「グリーンライフ」を設置している。「野菜」は、様々な野菜の生育調査方法、土の効用、農場の基本的な管理方法など野菜の特性・利用法について学ぶ。本校の農場の他に、近隣の農家から水田の提供とともに指導をいただきながら、モチ米の



「野菜」(田植え)

栽培実習にも継続的に取り組んでいる。

学校設定科目として、健康な生活を送るために必要な「食・運動・余暇活動」などをテーマに、また、地域理解を深め、豊かなライフスタイルについて学んでおり、地域の方々や本校PTAと連携して学校の前の河川敷でコスモスの栽培や花壇づくりなどを行っている。なお、こうした野菜や花の育成には、地域のJA酪農部から堆肥を提供していただいている。

(2) 情報ビジネス系列

この系列では、商業科の科目を多く設置している。「ビジネス基礎」「経済活動と法」「簿記」「プログラミング」などのほか、資格取得につながる科目として、「ビジネスライセンス」という学校設定科目を設置している。資格取得のメリットは、「ワープロはできます」といっても技量の程度はわからないが、検定試験の取得級が一つの目安となり得ることである。「ビジネスライセンス」を設置して以来、この数年間で、珠算・電卓実務検定・ビジネス文書実務検定・情報処理検定・簿記実務検定の3級や2級、中には1級まで取得する生徒が出ている。これらの資格が、就職や進学において役立つほか、生徒からの申請により単位の認定も行っている。

専門教科「情報」では、「表現メディアの編

集と表現」を開講している。この科目も外部講師から専門的な指導を受けることで、生徒は優れた作品を制作している。創作物は、「課題研究発表会」で披露するほか、大学や専門学校のAO入試に活用する生徒もいる。

5. 今後の取組

これからも生徒のニーズや社会情勢に即した教育が実践できるよう選択科目の精選、充実を図りたい。来年度は、「手話」に関する学校設定科目を設置する予定であり、神奈川県聴覚障害者福祉センターから、聴覚障害のある方と手話通訳士を講師として招き、実践的な手話表現を学ぶ。また、平成28・29年度は、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校（国語）として、学校全体で授業改善に取り組み、教育の質の向上に努めている。

来年度の入学生より、次期学習指導要領の動向を視野に入れ、基礎的な学力の確実な定着を図るために、学校として国語、数学、英語の必修科目を多くし、グローバルな視野を育むため「地理A」も全生徒に履修させることとした。授業時間数を確保するために、1単位時間を55分とし、生徒が系統的に学習できるよう Semester制にも取り組む。大学と連携しての遠隔授業や学習活動コンソーシアムの活用など、新たな取組にもチャレンジする予定である。

今後も、総合学科の特性や強みをいかして、教育課程の編成について検証・評価・改善を図りながら、地域との連携・協働を深めていきたい。生徒の心豊かに逞しく人生を切り拓いていく力を育み、一人ひとりが将来の社会を支える人材となることを期待しながら、教育活動を推進していく。